

第3回家庭教育支援指導者等研修 実施レポート

日時：令和8年9月10日（木）10時～15時 参加者：36名（うち市町村等から25名）
会場：秋田県生涯学習センター 講堂

「様々な困り感を抱える子どもや保護者への支援について学ぼう」というテーマのもと、第3回研修を行いました。本研修では、午前にひきこもりの実態や個を尊重した寄り添い方、地域での活躍支援のあり方について理解を深めました。午後は子どもの発する小さなサインやSOSの捉え方、保護者への寄り添い方について学びました。その後、専門機関へ適切につなぐ連携のあり方のロールプレイで、客観的な事実を伝えるスキルを身に付けるといった実践的で充実した研修を行いました。

【午前の部 講話・演習】

社会福祉法人藤里町社会福祉協議会の会長 **菊池 まゆみ** 氏に「ひきこもりの実態と支援～藤里方式～～誰一人取り残さない地域づくりへの挑戦～」というテーマでお話いただきました。はじめに、「支援する人・される人を隔てない」という姿勢や、一人一人が地域の中で役割を持って生き生きと暮らせる「活躍支援」の考え方について紹介がありました。また、当事者や家族への情報提供のあり方、地域資源を見直す「あるもの探し」の重要性についての説明がなされました。演習では、グループごとに地域の強みや既存の行事・拠点を活用した「誰もが参加できる居場所づくり」について協議・発表を行い、多角的なアイデアを共有する貴重な機会となりました。



【午前の部 参加者アンケートより】（抜粋）

- ・「支援する人・される人を隔てない」という姿勢に感銘を受けた。学びの多い講話だった。
- ・試行錯誤しながら寄り添い、個を尊重しながら地道に活動していくことの大切さを学びました。

【午後の部① 講話】

秋田市保健所健康管理課の保健師 **甲嶋 達也** 氏より、「子どものSOSの受け方について～見逃さないで！小さなサインと寄り添い方～」と題して講話が行われました。秋田市における若者の自殺の現状や背景についての共有に続き、子どもが発する小さな変化やSOSのサイン（心身・行動の変化）への気付き方、そして傾聴やチューニングといった具体的な受け止め方について学びました。また、子どもを支える保護者自身の困り感に目を向けることや、「支援者を支援する」視点の重要性が示され、地域全体で子どもと保護者を孤立させない包括的なサポートの重要性を確認しました。



【午後の部① 参加者アンケートより】（抜粋）

- ・子どものSOSの受け止め方や秋田市の背景を知ることができて、勉強になりました。
- ・他の機関とつながっても関わりを続けていくことが大切なのだと思います。

【午後の部② 協議・演習】

県生涯学習センター 社会教育主事 **和泉 洋介** 氏より、「家庭教育支援関係者が専門機関へつなぐ際に必要なこと」をテーマに協議・演習が行われました。専門機関へ連絡・相談する際にニーズと目的を伝えること、支援者が過度に分析や評価・主観を交える必要はなく、「見たこと・聞いたこと（ありのままの事実）」をそのまま伝えることが重要であるというポイントが示されました。演習では、3人グループに分かれ、学校や保健所、民生委員等への連絡を想定したロールプレイを実施しました。事実ベースでの情報共有や、「信頼のパス」として関係機関へつなぐシミュレーションを行うことで、現場ですぐに活用できる実践的な対応力を養いました。



【午後の部② 参加者アンケートより】（抜粋）

- ・情報提供者として事実だけを伝える大切さを実感しました。
- ・ロールプレイを通して勘所をつかむことができました。